



**編集発行**

公益社団法人  
 四街道市シルバー人材センター  
 普及啓発委員会 広報編集グループ  
 四街道市和良比181-37  
 電話 043-497-5080  
<http://www.sjc.ne.jp/yotsukaidou/>

**自主・自立・共働・共助の理念と安全就業**



【白鳥】印西市（旧本埜村） 撮影：田原 巖 会員



**謹賀新年**

**会員増強に向けて**



新年、おめでとうございます。会員みなさまには、ご清栄の中、新年を迎えたことと推察いたします。本年は、この4月で、「平成」が幕を

閉じ、5月から新元号による新しい時代の始まりとなります。振り返って、バブルのピークと崩壊に始まった「平成」は、「失われた20年」とか、「停滞と災害」の時代とも言われましたが、多くの課題は、新しい時代へと引き継がれていきます。

ところで、シルバー人材センターにとりまして、最も重視しなければならないことは、少子高齢化問題であり、ここから派生した労働力不足問題につきましても、座視する訳にはいきません。65歳までの雇用が当たり前、今や70歳までの雇用が声高に叫ばれる今日、シルバー人材センターにとりましては、逆風の感がありますが、高齢者の就業希望が多様化していることと、地域のシルバー人材センターへの期待が依然大きい

ことを考えますと、ここ数年伸び悩んでいる会員を増強することは、最優先課題となります。

このことから、公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会の呼びかけと時を同じくして昨年4月当センターでは、会員増強のための特別委員会を設置いたしました。本年は、この特別委員会の増強策に沿って、積極的に会員増強運動に邁進したいと考えています。また、あわせて将来性ある介護保険事業や家事援助サービス事業には、女性会員は欠かすことのできない戦力ともいえますので、女性会員増強にも力を入れていきたいと考えています。所期の目標達成には、会員みなさんのご協力が必須となりますので、是非とも宜しく願いいたします。本年の干支である「亥」に因み、会員増強という目標に向かって一直線に進めればと願っています。

一段と寒さが増す時節です。日常の健康維持には、特に自覚を持っていただくと共に、就業にあたっては「安全第一」を肝に銘じて戴くようお願いして、新年のご挨拶とさせていただきます。

公益社団法人四街道市シルバー人材センター  
 会長 齊藤 勝璋



## 新年のご挨拶

四街道市長 佐渡 斉



明けまして  
おめでとうございます。

皆様におかれましては、  
健やかに初春をお迎えの  
ことと心よりお慶び申し  
上げます。

また、日頃より市政に対して多大なるご支援と  
ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

近年、少子高齢化の急激な進展により、高齢者  
の増加が続く一方、生産年齢人口は減少傾向に  
あり、地域社会における活力の低下が懸念され  
ております。

このような社会環境の中、シルバー人材セン  
ターの果たす役割や重要性は益々高まっており、  
多様な就業機会の提供を通じて、会員の皆様が  
地域で活躍されますことは、自らの健康を保持し、  
生きがいとなるだけでなく、高齢者の社会参加  
を促進し、活力ある地域社会を維持していくう  
えで大変重要であると考えております。

会員の皆様におかれましては、地域社会を支  
える一員として、自らの豊富な知識や経験を活か  
した積極的な社会参加を果たし、地域社会の活  
性化、福祉の向上に一層のご尽力を賜りますよ  
うお願い申し上げます。

本年も会員の皆様には、作業の安全やご自身  
の健康に留意され、ご活躍されますとともに、  
高齢社会を支える地域の中核組織として、公益  
社団法人四街道市シルバー人材センターのます  
ますのご発展をご祈念申し上げ、新年のご挨拶  
とさせていただきます。



『平成』という時代を振り返り、  
その印象を一言で・・・

・・・と、理事会に投げかけてみました。

# 感謝

平成の始まりは、単身赴任。  
ひとり暮らしの寂しさより  
楽しさ倍増。あれから30年、  
仕事人間が遂に後期高齢者  
の仲間入り。先ずは健康で  
いられる自分に感謝、家族に  
感謝、仲間に感謝、お世話に  
なった皆様に感謝。

高久 勝美 理事



妻が去り、気がつけば家事  
をはじめ、近所付き合い等々。  
こんなに多忙な毎日を通  
してくれていたのかと思  
い、今年は妻に大感謝の  
気持ちで終わります。

来年31年は頑張ろう !!

岩崎 雄一 理事



天皇・皇后両陛下の被災地へのご訪問で、  
常に国民により添うようなお姿には、  
とても感慨深いものがあります。

市川 恵子 理事

暖かく優しい思いであった「温・暖」の文字。  
温暖化によって世界中の各地に異常気象がおき、  
大きな災害をもたらした。残念ながら、「温・暖」  
の怖い面を見た年でした。新しい年号を迎え、  
文字通りの「温・暖」の優しい未来であって  
欲しいと思います。

鈴木 昌子 理事



胸が熱くなるほど懐かしい

“悪ガキ”だった小学生時代

～ 夏は鹿島川で泳ぎ、冬の小春日和は  
土の匂いがする日向ぼっこ ～

伐採班の名物会員・高橋一郎さん（82歳）が  
住む小名木のあたりで、年配の人に高橋さん宅の  
所在を尋ねると、「ああ、金兵衛さんのお宅ね。」  
という答えが返ってくる。

「なんで、金兵衛さん??」

謎めいた疑問をご本人に直撃すると、興味深い話  
を聞くことができた。



「金兵衛（きんべい）という名は、江戸時代、この  
小名木一帯の庄屋だった我が家の先祖が、佐倉  
藩の堀田の殿様から直々に頂いたものなんです。  
年貢米を納める成績が大変良いということで  
頂戴したと伝え聞いています。」

高橋さんは、自宅である立派な和風づくりの大邸  
宅の屋根を指さして、「金」の字が彫られている  
飾り瓦の存在を教えてくれた。なるほど、そこ  
かしこに「金」の文字が読み取れる。

「いまでは金兵衛なんて名乗りませんが、元禄  
時代からある我が家の記録を調べると、私は  
8代目にあたるようです。」

さて、そんな由緒ある家に生まれた高橋さんだが、  
けっして平穏な人生ではなかった。

「私は昭和11年の生まれ。日本が戦争に明け  
暮れていた時代に小学生生活を過ごしました。」

自宅の前庭で父に髪の毛を刈ってもらっていて、  
米国のグラマン機の機銃掃射を受けたという  
経験もあります。」

軍都の一面を持っていた我が四街道ならではの  
出来事だが、それでも高橋さんが鮮明に懐かしく  
想起するのは、悪ガキだった小学生時代のことだ  
という。

「家から3キロ近くある旭小学校まで、村の同窓  
生とわら草履で通学しました。雨の日も風の日  
も、雪の日もね。」

現在の旭ヶ丘団地は影も形もなく、道中は田畑と  
原野ばかりだった。担任の先生方は二十歳前後の  
若い女先生も多かった。

「歳の近い姉のような感覚で、授業中に席を抜け  
出すなどしてよく困らせたものです。」

夏には鹿島川で泳いだり、冬の小春日和の時には、  
旭村一帯の小高い丘で日向ぼっこをしたり、今想起  
しても土の匂いと心が洗われるような光景が  
よみがえるという。3年生の時、終戦。その後農家  
を継いだが、大家族を養うために24歳のときから  
36年間、大手電機メーカーの品質管理部門で全国  
を回り、土曜、日曜は兼業農家として田畑を懸命に  
守った。

「電機メーカーで新幹線を安全に動かす仕事など  
で役に立つことができ、いい仲間もできました。  
それも卒業して今は大好きな土の匂いを嗅げる  
伐採などの仕事をシルバーの仲間とやれるのが  
うれしいです。」

高橋さんは最近の同窓会で90歳を超えた小学  
校の担任の女先生と再会した。当時の懐かしい四街  
道の景色がよみがえって、胸が熱くなったという。

（インタビューー 野村編集委員）

元千葉県警察警視正  
おめでとう！  
春日幸雄さんが  
「瑞宝双光章」を受章

～我がセンター会員が2年連続で栄えある叙勲～

襖・障子班で活躍中の春日幸雄さん（71歳）が、今秋の叙勲で栄えある「瑞宝双光章」を受章された。危険業務従事者などに与えられる同章の受章は昨春の瀬戸口定志さんに続き、我がセンターで2年連続という快挙です。



春日会員近影  
(南小・八木原小地区3班)

春日さんは宮城県出身。昭和41年4月、千葉県警の警察官に採用されて以来、主に警備・公安畑を歩いた。船橋署を皮切りに、千葉中央、柏、木更津などを経て、いすみ署の署長を最後に警察官を卒業した。勉強家・頑張り屋の春日さんは、警察官ならだれもが憧れる階級、「警視正」まで上り詰めたが、その出世の裏方では妻・昭子さんの支えがあった。40年近い警察官人生のうち、17年間は単身赴任。その間、昭子さんが子供たちの成長と家を守り続けてくれたという。

「どうしても忘れることのできないのは、機動隊員として関わった成田空港闘争ですね。複数の同僚の隊員が殉職した、痛ましい出来事もありました。」

受章のため昭子さんと連れ添って皇居を訪れ、陛下のお言葉を頂いた。この先の人生は、夫婦そろって孫たちの成長を見守っていききたいと思っている。

(インタビュアー 野村編集委員)

私の趣味



菊地 鏡二郎 会員  
(南小・八木原小地区4班)  
広報誌配達班



テニス三昧の趣味を楽しんでいたが、足腰を鍛えるためにジョギングを始めて久しい。

走ることはその気になればすぐに始められるが、しかし相手もいないので、いつでも止められるから、継続は難しい。四季の移ろいを肌で感じ

られる朝のジョギングは、快適である。

誰に頼まれてもいないのに、各地のレースにも出かけるが、年齢にあったタイムで心地よい汗がにじむ。

さりとて、関門通過と完走への緊張感もあり、自分に負けたくない。

完走の達成感はたまらず、心の中で小さくガッツポーズをして自らを讃えている。

§ 編集後記 §

平成も残り僅かです。皆様には、どんな時代だったでしょうか？ 平成は、当センターにとり、契約高・会員数の伸びとも、大躍進の時期でした。

しかし、ここ数年はセンターの事業を支える会員数が足踏み状態で、地域の高齢化が進行し、当センターに期待が高まる今後が心配です。会員の皆様！知人・友人の方々を仲間に誘って下さい。新年が、幸多い年でありますよう、お祈り申し上げます。

会 員 数

男 性	441名
女 性	146名
合 計	587名



平成30年11月末日現在

最高登録会員数 平成24年1月末 672名